

増比前年、食実

佐伯・大分と3市北

PRに、さらな味濃厚

1/2

岸海
つりま
豊ガ
まキ
日岩

夏に旬を迎える岩ガキのPRキャンペーン「日豊海岸岩ガキまつり2021」の実績報告と公開抽選会は10月27日、延岡市北浦町の牡蠣家(かきや)であった。実食総数は3市1町(延岡市、日向市、門川町、大分県佐伯市)

で1万3143食。昨年度の1万2697食を446食上回った。同キャンペーンは、3市1町に共通する漁業資源である岩ガキを観光振興に生かそうと、毎年5〜8月に実施。今年は19店舗(延岡市5、日向市5、門川町1、佐伯市8)が参加し、日向灘と豊後水道で育った岩ガキや関連するオリジナルメニューを提供した。

実食数の内訳は、延岡市4649食、日向市4109食、門川町79食、佐伯市4306食。キャンペーンに併せて実施したスタンプラリー形式のプレゼント企画には全国1681人から応募があった。

今年はキャンペーン期間中に緊急事態宣言が2度発令されるなど、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸

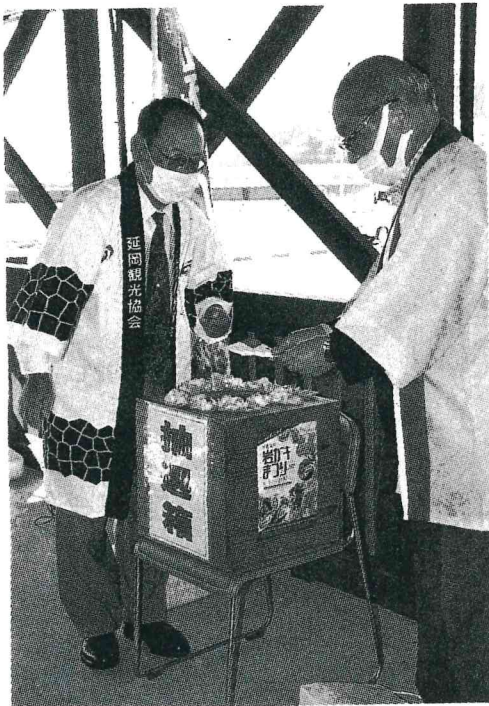
念されたが、前年を上回る実績に出席者からは喜びの声が聞かれ、今後も「牡蠣(かき) 夏季―東九州地域」のイメージ戦略を図っていくことで一致した。

実績報告と公開抽選会には、3市1町の観光協会をつくる実行委員会の関係者が出席。報告に続いて行われた抽選会では、出席者が順番に応募はがきを引き、1等(豪華伊勢え

びセット)6人、2等(地元の特選グルメセット5千円分)9人、3等(同3千円分)10人を決定した。発表は発送をもって行つたが、1等景品は生鮮品のため当選者に事前連絡する。

延岡観光協会の谷平興二会長は「濃厚な味は海外受けもいはず。岩ガキが観光振興のスーパースターになると期待したい」。日向市観光協会の黒木繁人

会長代行は「地域活性化につながる近隣市町の交流事業。大切にしていきたい」。門川町観光協会の大石隆治事務局長は「コロナ禍の早期収束を願いながら、来年もPRに励んでいく」。佐伯市観光協会の岩本光生会長は「生きる」とは他者と交わることの持続で、観光も同じ。このつながりを大事にしたい」とそれぞれキャンペーンの発展を誓っていた。



プレゼント企画の抽選を行う延岡観光協会の谷平興二会長(左)